

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
交通部会長 松 本 治 男
専務理事 清 原 淳 平

交通部会のお知らせ(第261回)

日時 平成30年5月29日(火) 午後1時半～3時半

場所 参議院議員会館 地下1階 B105会議室

千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車5分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「B105会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、最近の交通情勢について

挨拶 松本治男 交通部会長(元近畿管区警察局長)

2、自動二輪車等に係る駐車環境整備の推進について

3、第二種免許制度等の在り方に関する有識者会議の開催について

4、交通事故統計(4月中及び5月28日まで)

解説 警察庁交通企画課 落合大地課長補佐(警視)

報 告

去る4月24日開催の第260回交通部会は、松本治男部会長が議長を務め行われました。

まず、松本部会長より、「最近の交通情勢について思う」と題して開会挨拶がありました。小学校1年生が横断歩道上で事故にあうケースが多い。日本は欧米と比べ、全体的に横断歩道上での車両対人の事故が目立つ。欧米は歩行者がいたら必ず止まることが心掛けられているが、日本ではいわば歩行者と車両との阿吽の呼吸が成り立たないと、歩行者は止まると思い、車両

は気づかず事故につながる。車両は一時停止の標識がなくても止まる意識を持たないと、今後もこういったケースは相次ぐだろう。

次に、警察庁交通局交通企画課 落合大地課長補佐（警視）より、「自動運転に係る整備制度大綱」について解説がありました。今回の大綱は、自動運転車と人間の運転する自動車が混在する時期に、人間が運転すると同等の安全性が担保されるかという課題が主眼に置かれている。その時期は、いざというときはすぐに人間が交代できるようなシステムが中心となる。自動運転車の安全性要件は今年夏までに取りまとめられることとし、交通ルールの整備も進める。自動運転システムがハッキングされた場合は、政府保障で対応する予定となっている。

次に、「道路交通法施行規則の一部を改正する内閣府令案に対する意見の募集」について解説がありました。50CC以上125CC以下の限定普通二輪免許の教習日数を短縮するため、1日の技能教習可能時間を引き上げ、同時に教習シミュレーターを新しいものに切り替える内閣府令について、4月9日から1か月間、意見募集を行う。

次に、「春の交通安全運動の実施結果」について解説がありました。昨年に比べ、発生件数、負傷者数とも13%前後減少したが、死者数は10名増の84名となった。子供は死者数0。75歳以上の高齢者も減少した。

次に、「交通事故統計（3月中及び4月23日まで）」について解説がありました。3月は2月に続いて減少し、4月は微増しているものの、年間通じては減少傾向が続いている。

この後、委員一同にて盛んな意見交換があり、以下のような意見が出ました。◎歩行者対車の事故の問題は、横断歩行者妨害の取り締まり強化に主眼を置いたほうが良い。◎歩きスマホなど、歩行者側に問題があることもある。歩行者が交通弱者という考え方は今の時代と合わない。◎自動運転技術は、人間が運転する以上の安全が確保されなければならない。

★ 資料代 会員500円
次回、5月29日（火）の交通部会（参）に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛FAX 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

電話 _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

（その際の会費は二千元となります。）

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp